

# 本番想定 of 避難訓練を実施！

今から10年前の平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、今でもその影響を各地に大きく残しています。マグニチュード9.0という日本周辺における観測史上最大の地震でした。また、それに伴う大津波や原子力発電所での大事故があったことから、災害時の避難の在り方についても、従来の方法でよいかどうか考えさせられるきっかけとなった大災害でした。

震災から10年を経て、先日、今年度2回目の避難訓練を地震想定で実施しました。それとともに、今回は次の2点を新たな試みとして導入しました。

- ① 訓練の日時を、事前に生徒に知らせずに行う。
- ② 生徒が校舎内に分散している状況で行う。

実際に災害が発生したときに生きる訓練でなければ意味がありません。また、大中生には、当たり前のシナリオに沿って行う予定調和（人や物事が予想どおりに順調に動き、結果もそのとおりになること）的な避難訓練から、レベルを上げて行える力が備わっているという確信から、9日（火）の昼休み終了間際の時間に非常ベルを鳴らしました。

次の活動のため清掃場所に向かっている生徒、すでに清掃に取りかかっている生徒など、一人一人の状況は違っていました。その中で、ベルの音とそれに続く緊急放送を受けて、生徒はその場で身を守る行動をとり、その後、指定の避難場所に避難しました。

避難開始の指示から避難完了までにかかった時間は、わずか4分51秒。とてもスムーズに行動でき、初めての挑戦とは思えないほどでした。さすが、大中生です。本当に災害が発生した時につながる訓練として、実りある避難訓練となりました。それとともに、教師の指示を待って動くのではなく、「自ら主体的に判断して行動できる生徒」に迫るためにも、意味のある活動となりました。

\*\*\*\*\*

## コミュニティ・スクールの実施に向けて、準備を進めています！～来年度 全面実施～

もしかすると、まだ馴染みのない言葉かもしれませんが、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」とは、新潟市が来年度から全面実施する、「保護者、地域、学校が一体となって地域の子どもの豊かな育成を目指す仕組み」のことです。簡単に言うと、これまで以上に「地域総がかり」で子どもを育成していくための制度です。それに向けて、大形中は今まで以上に「地域とともにある学校」づくりを目指して大きく舵を切っていきます。来年度の4月にスタートするコミュニティ・スクールの準備を、大形小学校とともに行っているところです。

本日、大形コミ協の瀧澤会長、佐藤事務局長に来校いただきました。これからの学校づくりや来年度にスタートするコミュニティ・スクールについて校長の考え方を説明し、ご意見をいただきました。学校と地域とのかかわり方に始まった意見交換ですが、瀧澤会長からは環日本海・東アジアにおける新潟市の目指すべきまちづくりの方向性についてのお話もいただき、学びの多い時間となりました。

ちなみに、瀧澤会長は大形中学校後援会の会長も引き受けてくださっています。今日の懇談でも、「学校のやりたいようにやりなさい」と学校の力強い応援団となっていていただいています。たいへんありがたい存在です。



上・中：その場で姿勢を低くし、頭を守る体勢をとります。  
下：雨天のため体育館に避難。5分かからずに点呼終了！

大形中学校 校長室だより  
**夢・希望・未来**

令和3年11月10日

第19号



瀧澤会長（中央）、佐藤事務局長（右）とともに。  
～ 写真撮影の時だけ、ノーマスクで～